



美しい 県土づくりNEWS

目次

- 2 一般県道吉里吉里釜石線 室浜トンネル築造工事に着手！
- 3 一般国道 107 号西和賀杉名畑地区 崩落土砂の撤去作業に着手！
- 4 一般国道 340 号丸峠工区の現場見学会を開催！
- 6 開運橋の塗替え工事を実施中！
- 7 東日本大震災津波からの本格復興等に関する要望を行いました
- 8 第5回復興道路会議～岩手県～を開催
- 9 砂防えん堤探検隊～地元小学生を対象に開催～
- 10 第 16 回鉄道のある風景写真コンテスト開催のお知らせ

2015 年

6 月

岩手県 県土整備部
手づくり広報誌第 131 号
平成 27 年 7 月 1 日発行
編集 県土整備企画室



三陸復興

室浜トンネル工事が始まりました！

平成 27 年 6 月 8 日、釜石市片岸町の一般県道吉里吉里釜石線 室浜トンネル築造工事において安全祈願祭が開催されました。

当日は、地元住民の皆様や受注者など約 50 名が出席しました。発注者を代表して佐々木和延沿岸広域振興局長から「地域の復興にかける熱い思いと一丸となり、道路の早期開通に向け全力で取り組んでいきたい」との挨拶がありました。

安全祈願祭の状況



トンネル坑口の様子



トンネル掘削状況

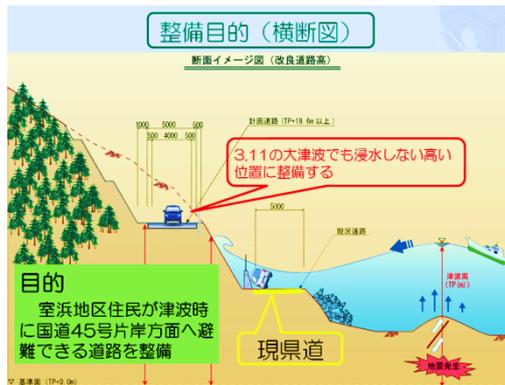


一般県道吉里吉里釜石線 室浜トンネル築造工事に着手!

沿岸広域振興局土木部
道路建設課

一般県道吉里吉里釜石線は、釜石市室浜地区から片岸地区にアクセスする水産業を支援する道路でしたが、東日本大震災津波により、室浜地区は壊滅的な被害を受けたほか、避難路となる県道も浸水したため、室浜地区は長期間にわたり孤立化しました。このため、室浜地区の**安全で安心なまちづくり**を推進するため、周辺の片岸地区の防潮堤や区画整理事業等のまちづくりと一体となった、**災害に強い道路整備**を行うものです。**トンネルの貫通は平成27年8月頃**を目標に、また、**トンネルを含めた全線約1.7km**は平成29年度の**開通**を目標としています。

今回行われた安全祈願祭を弾みとして、安全に工事を進め、一日も早い完成を目指し、関係機関等との連携を図りながら取り組んでいきます。

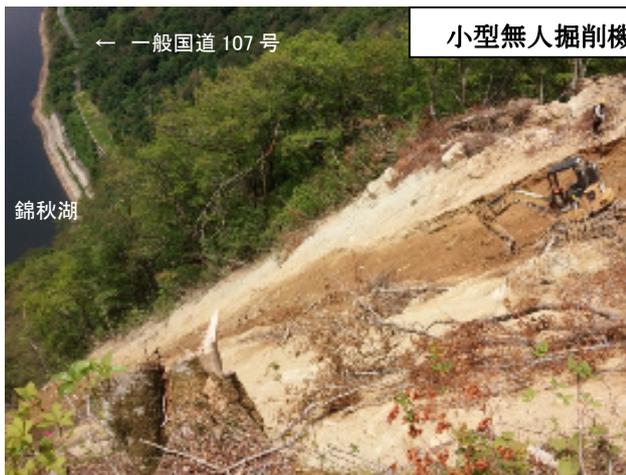
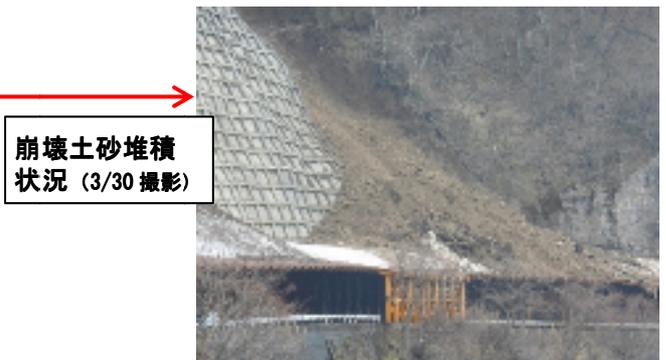


一般国道 107 号西和賀町杉名畑地区 崩落土砂の除去作業に着手！

道路環境課

一般国道 107 号西和賀町杉名畑地区は、平成 27 年 3 月 29 日（日）に発生した土砂崩落により、現在も**全面通行止め**が続いています。

このため、早期復旧に向けて、6月20日（土）から**小型無人掘削機械により斜面上部の土砂の除去作業に着手**しました。この土砂除去作業を含む斜面对策を9月末までに終え、既設のスノーシェッドを撤去したうえで仮設防護施設を設置し、**11 月末までに片側交互通行を確保する予定**です。今後、工事を進める中で更なる工期短縮に努めていきます。



小型無人掘削機械による土砂除去作業状況



【復興支援道路】

一般国道 340 号立丸峠工区の現場見学会を開催！

～ 未来ある子供たちの復興教育として ～

沿岸広域振興局土木部宮古土木センター

県が「復興支援道路」として遠野市恩徳～宮古市小国間で整備を進めている一般国道 340 号立丸峠工区について、宮古市立川井小学校の復興教育の一環として、6月8日（月）にトンネル工事（（仮称）小峠トンネル L=920m）の現場見学会を開催しました。

一般国道 340 号は、東日本大震災津波の際、沿岸部の一般国道 45 号等が通行止めとなる中、後方支援拠点として機能した遠野市から宮古市や大槌町等を結ぶ道路として、自衛隊や消防、物資輸送等を担う「命の道路」として機能した道路です。本現場見学会に先立ち、6月4日（木）に小学校の授業の中で震災時に道路が果たした役割等を児童に学習していただいた後、トンネル工事が進む（仮称）小峠トンネル築造工事の現場を間近で見学していただきました。

現場見学会には、宮古市立川井小学校の4年生から6年生の児童 30 名が参加し、トンネル掘削機械・設備やトンネル掘削工事の最前線の状況を間近で見学したほか、事前学習の中で児童が書いたメッセージ入りの防水シートをトンネル内部に貼付けていただきました。

児童の皆さんからは、「私たちのために工事を一生懸命進めてくれて本当にありがとうございます。みんなのために、未来のためにこれからもがんばってください!」、「完成したトンネルを通るのが楽しみです。ありがとうございます。」などのトンネル工事に対する温かいエールなどをいただきました。

川井小学校の事前学習



事前学習で防水シートにメッセージを記載



トンネル坑内を現場見学



メッセージ入り防水シートをトンネルに貼付け



児童の皆さんが書いたメッセージ入りの防水シートは、トンネル工事が進むとコンクリートに覆われて見えなくなってしまうかもしれませんが、トンネルが完成した後もずっとトンネルの中に残り続けます。

平成26年8月から掘削工事を進めていた（仮称）小峠トンネルは貫通間近です。県では、今年を「本格復興邁進年」と位置付け、復興を強力に推し進めており、立丸峠工区の一日も早い完成に向けて、安全に万全を期し、全力で工事を推進していきます。

トンネル掘削の最前線で集合写真



貫通間近の（仮称）小峠トンネル

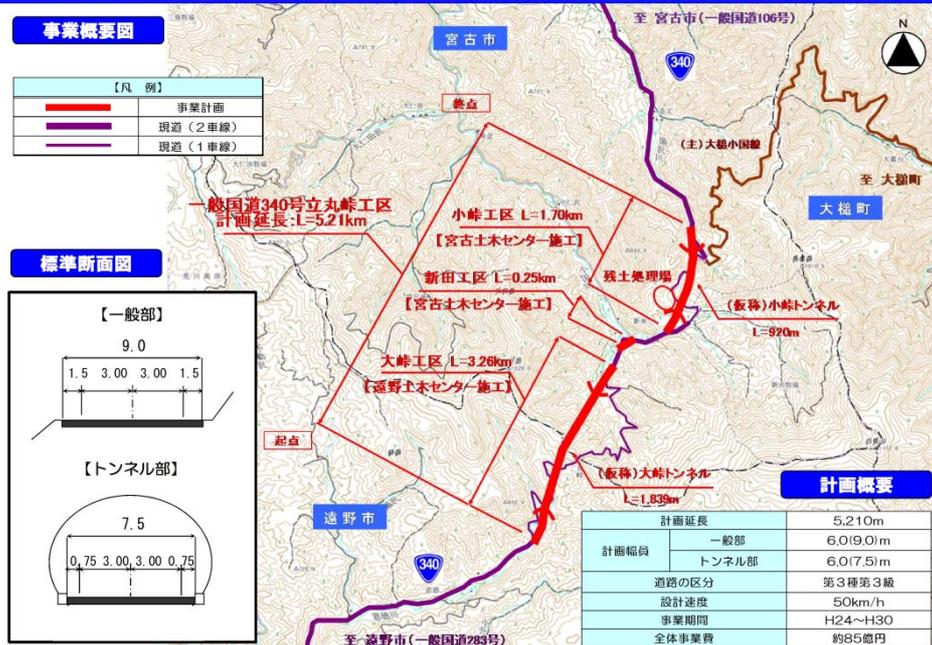


【立丸峠工区の事業概要】

県では、岩手県東日本大震災津波復興計画に基づき、三陸沿岸地域の復興と安全・安心を確保し、災害強く信頼性の高い道路ネットワークを構築することを目的として、三陸復興道路整備事業を実施しています。

一般国道340号立丸峠工区は、三陸復興道路整備事業の「復興支援道路」に位置付け、県が重点的に整備を進めています。

一般国道340号立丸峠工区の事業概要



開運橋の塗替え工事を実施中！

盛岡広域振興局土木部

盛岡駅と市の中心部を結ぶ開運橋は昭和28年の架橋から約62年が経過し、また平成5年の塗替え工事から約22年経過していることから、橋梁の延命化及び周辺の景観の向上を目的として、いわて国体開催前の完了を目標に、塗替塗装工事を実施しています。



開運橋塗装劣化状況(全景)



開運橋塗装劣化状況(損傷拡大)

6月12日(金)には、報道向け現地説明会を実施し、盛岡市景観推進委員会にて正式決定された塗替える色や、今回の既存塗膜の撤去で採用する工法(エコクリーンブラスト工法)、今後の工程等についての説明を行いました。



説明会の状況



仮設防護パネルに覆われた開運橋の現在の姿



エコクリーンブラスト工法について説明する受注者(渡辺塗装工業株式会社)



「いわて国体」の競技、会場、会期を仮設防護パネルで、PR

※エコクリーンブラスト工法については、工事説明会の開催も予定しています。

東日本大震災津波からの本格復興等に関する要望を行いました

～平成28年度政府予算の概算要求に向けて～

県土整備企画室

県では6月4日（木）に、東日本大震災津波からの本格復興等にあたっての提言・要望活動を実施しました。

今回の要望は、東日本大震災津波からの復旧・復興に向けて、甚大な被害を受けた被災地では、引き続き国等の強力な支援が必要であることから、「今後も、国費による充実した支援」、「復興の支障となっている現行制度の弾力的な運用」等について、達増知事から国等に対して提言・要望を行いました。

このうち、県土整備部関係については、「復興に必要な財源の確保と十分な予算措置」、「社会資本整備総合交付金（復興）の復興の進度に応じた予算措置及び全面的な財政支援」等について、竹下亘復興大臣、自民党、西村明宏国土交通副大臣等に対し要望を行いました。

県では、被災地における復興に邁進するため、引き続き、国に働きかけていきます。

【主な要望内容】

1 復興に必要な財源の確保と十分な予算措置

- 復興が完了するまでの間の財源確保
- 特例的な財政支援の継続

2 社会資本整備総合交付金（復興）の復興の進度に応じた予算措置及び全面的な財政支援

- 復興の進度に応じた予算措置及び全面的な財政支援
- 基金型の創設

3 直轄事業の着実な推進と全面的な財政支援

- 「復興道路等」の早期完成
- 津波対策のための防災施設等の早期復旧・整備



復興庁への要望状況
（左から、竹下亘復興大臣、達増拓也岩手県知事）



国土交通省への要望状況
（左から、達増拓也岩手県知事、西村明宏国土交通副大臣）

第5回復興道路会議～岩手県～を開催

～復興道路等を生かした地域振興策などについて活発な議論～

道路建設課

平成27年6月1日（月）、第5回復興道路会議を国と県の共催で開催しました。

復興道路会議は、国の復興のリーディングプロジェクトとして、かつてないスピードで整備が進められている復興道路・復興支援道路について、事業を迅速かつ円滑に進めるため、国、県、沿線市町村、民間経済団体、報道機関の構成員が情報共有するとともに、必要に応じた連絡調整を行うもので、震災後の平成23年11月の第1回開催から今回で5回目の開催となりました。

会議では、事業進捗状況や「見える化」の取組状況の報告のほか、今回から、復興道路等の全線開通を見据え、県と市町村から、復興道路等の整備効果や復興道路等を生かした地域振興策などの事例発表をし、その後意見交換を行いました。

県、市町村の発表では、市町村の復興まちづくり計画に復興道路等が組み込まれていること、復興道路等の早期の全線開通を見込み、沿線地域への相次ぐ企業立地や工場の増設、宮古港のフェリー定期航路開設に向けた動きなど、すでに企業活動が活発化していることなどから、今後も整備スピードを落とすことなく、早期の全線開通が必要不可欠であることが述べられました。

意見交換では、過去の東北縦貫自動車道の開通により、岩手県が首都圏等の野菜の一大産地になったことなども触れられ、復興道路等を生かした地域振興策には、これまでの延長線ではない全く違う考え方で検討も必要になること、大幅な時間短縮による水産業の新たな生鮮物流の可能性や、道の駅を核とした地域振興の可能性が広がること等について、活発な意見が交わされました。

また、28年度以降の復興予算のあり方で一部地方負担の方針が示されたことに対しては、復興道路等のもとより復興事業全体の遅れを懸念する意見や、国の事業化の経緯や復興のリーディングプロジェクトの位置付けなどから、最後まで国が責任を持って進めるべきとの意見等、一部地方負担に反対する意見が相次ぎました。



川崎茂信 東北地方整備局道路部長 挨拶



連見有敏 岩手県県土整備部長 挨拶



高峯聡一郎 宮古市都市整備部長 発表



会議の開催状況

その後の6月24日（水）の政府復興推進会議で決定した平成28年度以降の復興事業のあり方においては、三陸沿岸道路は引き続き国の全額負担での実施となった一方、2つの横断道路については地方負担の対象となり、大変残念な結果となりました。新たな負担は小さい額ではありませんが、引き続き国や関係機関と連携し、一日も早い全線開通に向けて取り組んでいきます。

砂防えん堤探検隊 ～ 地元小学生を対象に開催 ～

砂防災害課

国土交通省では、昭和58年より毎年6月を「土砂災害防止月間」と定め、土砂災害の防止と被害の軽減を図るための各種活動を実施しています。

毎年、国土交通省岩手河川国道事務所、岩手県、滝沢市及び雫石町では、土砂災害防止月間の一環として「砂防えん堤探検隊」を開催しており、次代を担う小学生が、八幡平山系における火山災害と土砂災害、地域の安全を支える砂防施設や災害から自らの身を守ることの重要性等について学習しています。

今年度の砂防えん堤探検隊は、4回開催することとしており、6月10日（水）に、滝沢東小学校4年生の児童51人が先陣として出発しました。八幡平市「イーハトーブ火山局」で岩手山の噴火の歴史を学んだ後、岩手県立大学の伊藤英之教授によるコーラ噴火実験を体験しました。次に場所を移動し、焼走り溶岩流、小水無沢第1砂防えん堤と松川流路工を見学し、子供たちは真剣に砂防施設の重要性について学んだ様子でした。最後に主催者から児童の代表に修了証を授与し、無事に終了しました。

八幡平山系の砂防えん堤探検隊の様子



噴火実験に皆驚きです



職員の説明を真剣に聞く児童



修了証が授与されました



記念写真をパチリ！

第16回 鉄道のある風景写真コンテスト開催のお知らせ

～ 作品募集の案内 ～

県土整備企画室

鉄道の日実行委員会と独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構が、「**鉄道のある風景写真コンテスト**」の応募作品を募集しています！

本コンクールは、「鉄道の日^{*}」の制定を記念し、毎年、**日本の豊かな四季と共にある鉄道の風景写真を一般の方々から募集**しているものです。

本コンテストで入賞・入選した作品は、「鉄道の日」制定の趣旨に沿うべく、なるべく多くの方々に御紹介するため、駅等で展示会を開催するほか、鉄道・運輸機構のカレンダーその他刊行物に使用される予定で、グランプリ受賞者には、賞状及び記念品のほか、トロフィーと副賞が贈呈されます。

皆さん、入賞・入選を目指して、作品を応募してみませんか。

応募案内

- テーマ
日本の四季折々の「鉄道のある風景」を題材とした作品
- 応募受付期間
平成27年7月1日(水)～
平成27年8月28日(金)
- 応募資格
アマチュアの方
- 表彰

グランプリ(国土交通大臣賞)	1点
四季賞(春、夏、秋、冬ごと)	各1点
ジュニア賞(18歳以下を対象)	1点
入選	数点

※ 応募規格・応募方法等は、独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機のホームページを確認ください。

URL ⇒ <http://www.irtt.go.jp/>

前回 グランプリ賞「川霧の中に」(猿橋駅～鳥沢駅)



前回 特別賞「祝福の大漁旗」(島越駅～小本駅)



※「鉄道の日」とは

明治5年(1872年)に日本で最初の鉄道が開通した10月14日を記念して、鉄道の発展を祝うとともに、鉄道が国民に広く愛され、その役割について国民の関心が高まることを願って、平成6年に制定されました。